

(別紙) 被告製品1の構成

	原告ら主張	証拠	被告主張	乙号証
a	使用状態においてウエスト開口部(WO)及び左右のレッグ開口部(LO)が形成され、ウエスト開口縁(WO)を含むウエスト部(W)と、該ウエスト部(W)の下端からレッグ開口始端に至る腰下部(U)とからなる胴周り部(T)において、周方向に沿い、かつ縦方向に間隔をもって配置された多数の2種類の伸縮部材、すなわち、前身頃及び後身頃のそれぞれのウエスト開口縁(WO)側から数えて1本目から4本目までに配置された合計8本の伸張応力及び太さ(dtex)の大きいウエストギャザー(220)と、ウエスト開口縁(WO)側から数えて5本目以降の伸縮部材で、前身頃に12~13本及び後身頃に13本配置されている、伸張応力及び太さ(dtex)の小さいフィットギャザー(221)とを有し(そのうち、前身頃において3本、後身頃において4~5本のフィットギャザー(221)(以下「フィットギャザー(221-1)」という。))は、ウエスト部(W)に配置され、かつ周方向に連続して配置されており、残りのフィットギャザー(221)(以下、「フィットギャザー(221-2)」という。))は、胴周り部(T)の中央部を除く左右脇部に配置されている。)、縦方向に沿って腰下部(U)まで延在する半剛性の吸収コア(213)を有する使い捨て紙おむつであって、	甲4 甲5	使用状態においてウエスト開口部(WO)及び左右のレッグ開口部(LO)が形成され、ウエスト開口縁(WO)を含むウエスト部(W)と、該ウエスト部(W)の下端からレッグ開口始端に至る腰下部(U)とからなる胴周り部(T)において、周方向に沿い、かつ縦方向に間隔をもって配置された多数の2種類の伸縮部材、すなわち、前身頃及び後身頃のそれぞれのウエスト開口縁(WO)側から数えて1本目から4本目までに配置された合計8本の伸張応力及び太さ(dtex)の大きいウエストギャザー(220)と、ウエスト開口縁(WO)側から数えて5本目以降の伸縮部材で、前身頃に12~14本及び後身頃に13本配置されている、伸張応力及び太さ(dtex)の小さいフィットギャザー(221)とを有し(そのうち、前身頃において1~2本、後身頃において4~5本のフィットギャザー(221)(以下「フィットギャザー(221-1)」という。))は、周方向に連続して配置されており、残りのフィットギャザー(221)(以下、「フィットギャザー(221-2)」という。))は、胴周り部(T)の中央部を除く左右脇部に配置されている。)、縦方向に沿って腰下部(U)まで延在する半剛性の吸収コア(213)を有する使い捨て紙おむつであって、	乙2 乙3
b	前身頃及び後身頃のウエストギャザー(220)及びフィットギャザー(221)は、胴周り部(T)の60%以上の長さ範囲にわたって間隔を7.0mm以下とされた状態で配置され、		前身頃及び後身頃のウエストギャザー(220)及びフィットギャザー(221)は、胴周り部(T)の60%以上の長さ範囲にわたって間隔を7.0mm以下とされた状態で配置され、	争いなし
c	前身頃及び後身頃の腰下部(U)に配置されたフィットギャザー(221-2)は、腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、	甲5	前身頃及び後身頃の腰下部(U)に配置されたフィットギャザー(221-2)は、腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、前身頃及び後身頃の胴周り部(T)のウエストギャザー(220)とフィットギャザー(221-2)の間に配置されている、前身頃において1~2本、後身頃において4~5本のフィットギャザー(221-1)は、周方向に連続して配置され、	乙2 乙3
d	<伸張応力について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の伸張応力はほぼ同一であり、ウエストギャザー(220)よりも小さい。 <太さについて> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の太さはほぼ同一であり、620dtex以下である。 <断面外径について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)は断面略楕円形の伸縮部材であって、その断面は、 前身頃において、高さが約189μm、幅が約317μm、 後身頃において、高さが約185μm、幅が約306μmであり、 ウエストギャザー(220)は、断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、 前身頃において、高さが約214μm、幅が約1513μm、 後身頃において、高さが約223μm、幅が約1561μmであり、 <伸長率について> フィットギャザー(221-2)の張設具合の平均伸長率は、 前身頃において、自然長の2.71倍、 後身頃において、自然長の2.57倍、である。	甲6 甲7 甲9 甲10	<伸張応力について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の伸張応力はほぼ同一であり、ウエストギャザー(220)よりも小さい。 <太さについて> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の太さはほぼ同一であり、620dtex以下である。 <断面外径について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)は断面略楕円形の伸縮部材であって、ねじれた状態で配置されており、その断面外径の大きさはフィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)とでほぼ同一であり、当該断面は、 長径が約363.83 μm、短径が約200.41 μmであり、 ウエストギャザー(220)は、断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、 高さが約224 μm、幅が約1772 μmであり、 <伸長率について> ①使用状態の伸長率 フィットギャザー(221-2)の使用状態における製品状態と比較した場合の伸長率は、自然長=0%とすれば約88%、自然長=100%とすれば約188%であり、 ②破断伸長率 フィットギャザー(221-2)の破断伸長率は、自然長=0%とすれば460~660%、自然長=100%とすれば560~760%であり、 ③張設具合の伸長率 フィットギャザー(221-2)の張設具合の平均伸長率は、 前身頃において、自然長の2.71倍(自然長=0%とすれば171%、自然長=100%とすれば271%)、 後身頃において、自然長の2.57倍(自然長=0%とすれば157%、自然長=100%とすれば257%)、である。	乙16 乙33 乙4の2 乙17の1及び2
e	ことを特徴とする使い捨て紙おむつ。		ことを特徴とする使い捨て紙おむつ。	争いなし
f	製品の外面を構成し、フィットギャザー(221)が配置された外形シート(201)と、外形シート(201)内面側に固定され、吸収コア(213)、透液性トップシート(211)及び不透過性バックシート(212)を有する吸収主体(210)と、を備えており、		製品の外面を構成し、フィットギャザー(221)が配置された外形シート(201)と、外形シート(201)内面側に固定され、吸収コア(213)、透液性トップシート(211)及び不透過性バックシート(212)を有する吸収主体(210)と、を備えており、	争いなし
g	フィットギャザー(221-2)は、 ・前身頃においては、79.5%のフィットギャザー(221-2)が、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、 ・後身頃においては、79.7%のフィットギャザー(221-2)が、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、	甲8	フィットギャザー(221-2)は、 ・前身頃においては、少なくとも1本のフィットギャザー(221-2)について、その端部が前記吸収コア(213)の側縁部と重ならず腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、 ・後身頃においては、概ね全てのフィットギャザー(221-2)について、その端部が前記吸収コア(213)の側縁部と重ならず前記腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され	乙5 乙34
h1	レッグ開口部を形成する長さ範囲である股部(L)のうち、前身頃側のレッグ開口始端と股部の縦方向中心との間におけるレッグ開口始端から始まる該始端寄りの部分領域に複数のフィットギャザー(221)と同種の伸縮部材である股部伸縮部材(223)が、縦方向の間隔を平均すれば7.0mm以下とされた状態で外形シート(201)に配置され、		レッグ開口部を形成する長さ範囲である股部(L)のうち、前身頃側のレッグ開口始端と股部の縦方向中心との間におけるレッグ開口始端から始まる該始端寄りの部分領域に複数のフィットギャザー(221)と同種の伸縮部材である股部伸縮部材(223)が、縦方向の間隔を平均すれば7.0mm以下とされた状態で外形シート(201)に配置され、	争いなし
h2	・前身頃側の股部伸縮部材(223)は、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって股部の中央部を除く左右脇部に周方向に配置され、 ・後身頃側の股部伸縮部材(223)は、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって股部の中央部を除く左右脇部に周方向に配置され、		・前身頃側の股部伸縮部材(223)は、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって股部の中央部を除く左右脇部に周方向に配置され、	前身頃につき争いなし
j	股部伸縮部材(223)の伸張応力及び断面外径は、ウエストギャザー(220)の伸張応力よりも小さく、かつ太さが620dtex以下であり、 ・股部伸縮部材(223)は、断面略楕円形の伸縮部材であって、その断面は、 前身頃において、高さが約202μm、幅が約293μmであり、 ・ウエストギャザー(220)は断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、 前身頃において、高さが約214μm、幅が約1513μm、 後身頃において、高さが約223μm、幅が約1561μm、である	甲6 甲9 甲10	股部伸縮部材(223)の伸張応力及び断面外径は、周方向連続して配置された前記フィットギャザー(221-1)の伸張応力及び断面外径と実質的に同一であり、ウエストギャザー(220)の伸張応力よりも小さく、かつ太さが620dtex以下であり、 股部伸縮部材(223)は断面略楕円形の伸縮部材であって、その断面は、 長径が約363.83 μm、短径が約200.41 μmであり、 ウエストギャザー(220)は、断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、 高さが約224 μm、幅が約1772 μm、である。	乙16 乙33

(別紙) 被告製品2の構成

	原告ら主張	証拠	被告主張	乙号証
a	使用状態においてウエスト開口部(WO)及び左右のレッグ開口部(LO)が形成され、ウエスト開口縁(WO)を含むウエスト部(W)と、該ウエスト部(W)の下端からレッグ開口始端に至る腰下部(U)とからなる胴周部(T)において、周方向に沿い、かつ縦方向に間隔をもって配置された多数の2種類の伸縮部材、すなわち、前身頃及び後身頃のそれぞれのウエスト開口縁(WO)側から数えて1本目から4本目までに配置された合計8本の伸張応力及び太さ(dtex)の大きいウエストギャザー(220)と、ウエスト開口縁(WO)側から数えて5本目以降の伸縮部材で、前身頃に12～13本及び後身頃に11本配置されている、伸張応力及び太さ(dtex)の小さいフィットギャザー(221)とを有し(そのうち、前身頃において3本、後身頃において4～5本のフィットギャザー(221)(以下「フィットギャザー(221-1)」という。))は、ウエスト部(W)に配置され、かつ周方向に連続して配置されており、残りのフィットギャザー(221)(以下、「フィットギャザー(221-2)」という。))は、胴周部(T)の中央部を除く左右脇部に配置されている。)、縦方向に沿って腰下部(U)まで延在する半剛性の吸収コア(213)を有する使い捨て紙おむつであって、	甲4 甲5	使用状態においてウエスト開口部(WO)及び左右のレッグ開口部(LO)が形成され、ウエスト開口縁(WO)を含むウエスト部(W)と、該ウエスト部(W)の下端からレッグ開口始端に至る腰下部(U)とからなる胴周部(T)において、周方向に沿い、かつ縦方向に間隔をもって配置された多数の2種類の伸縮部材、すなわち、前身頃及び後身頃のそれぞれのウエスト開口縁(WO)側から数えて1本目から4本目までに配置された合計8本の伸張応力及び太さ(dtex)の大きいウエストギャザー(220)と、ウエスト開口縁(WO)側から数えて5本目以降の伸縮部材で、前身頃に13～14本及び後身頃に11本配置されている、伸張応力及び太さ(dtex)の小さいフィットギャザー(221)とを有し(そのうち、前身頃において3～4本、後身頃において3～4本のフィットギャザー(221)(以下「フィットギャザー(221-1)」という。))は、周方向に連続して配置されており、残りのフィットギャザー(221)(以下、「フィットギャザー(221-2)」という。))は、胴周部(T)の中央部を除く左右脇部に配置されている。)、縦方向に沿って腰下部(U)まで延在する半剛性の吸収コア(213)を有する使い捨て紙おむつであって、	乙2 乙3
b	前身頃及び後身頃のウエストギャザー(220)及びフィットギャザー(221)は、胴周部(T)の60%以上の長さ範囲にわたって間隔を7.0mm以下とされた状態で配置され、		前身頃及び後身頃のウエストギャザー(220)及びフィットギャザー(221)は、胴周部(T)の60%以上の長さ範囲にわたって間隔を7.0mm以下とされた状態で配置され、	争いなし
c	前身頃及び後身頃の腰下部(U)に配置されたフィットギャザー(221-2)は、腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、	甲5	前身頃及び後身頃の腰下部(U)に配置されたフィットギャザー(221-2)は、腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、前身頃及び後身頃の胴周部(T)のウエストギャザー(220)とフィットギャザー(221-2)の間に配置されている、前身頃において3～4本、後身頃において3～4本のフィットギャザー(221-1)は、周方向に連続して配置され、	乙2 乙3
d	<伸張応力について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の伸張応力はほぼ同一であり、ウエストギャザー(220)よりも小さい。 <太さについて> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の太さはほぼ同一であり、620dtex以下である。 <断面外径について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)は断面略楕円形の伸縮部材であって、その断面は、前身頃において、高さが約214μm、幅が約290μm、後身頃において、高さが約209μm、幅が約264μmであり、ウエストギャザー(220)は断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、前身頃において、高さが約232μm、幅が約1564μm、後身頃において、高さが約233μm、幅が約1563μmであり、 <伸長率について> フィットギャザー(221-2)の張設具合の平均伸長率は、前身頃において、自然長の2.88倍、後身頃において、自然長の2.55倍、である。	甲6 甲7 甲9 甲10	<伸張応力について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の伸張応力はほぼ同一であり、ウエストギャザー(220)よりも小さい。 <太さについて> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)の太さはほぼ同一であり、620dtex以下である。 <断面外径について> フィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)は断面略楕円形の伸縮部材であって、ねじれた状態で配置されており、その断面外径の大きさはフィットギャザー(221-1)とフィットギャザー(221-2)とでほぼ同一であり、当該断面は、長径が約337.08μm、短径が約215.46μmであり、ウエストギャザー(220)は、断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、高さが約248μm、幅が約1825μmであり、 <伸長率について> ①使用状態の伸長率 フィットギャザー(221-2)の使用状態における製品状態と比較した場合の伸長率は、自然長＝0%とすれば約105%、自然長＝100%とすれば約205%であり、 ②破断伸長率 フィットギャザー(221-2)の破断伸長率は、自然長＝0%とすれば460～660%、自然長＝100%とすれば560～760%であり、 ③張設具合の伸長率 フィットギャザー(221-2)の張設具合の平均伸長率は、前身頃において、自然長の2.71倍(自然長＝0%とすれば171%、自然長＝100%とすれば271%)、後身頃において、自然長の2.57倍(自然長＝0%とすれば157%、自然長＝100%とすれば257%)、である。	乙16 乙33 乙4の2 乙17の1及び2
e	ことを特徴とする使い捨て紙おむつ。		ことを特徴とする使い捨て紙おむつ。	争いなし
f	製品の外面を構成し、フィットギャザー(221)が配置された外形シート(201)と、外形シート(201)内面側に固定され、吸収コア(213)透液性トップシート(211)及び不透過性バックシート(212)を有する吸収主体(210)と、を備えており、		製品の外面を構成し、フィットギャザー(221)が配置された外形シート(201)と、外形シート(201)内面側に固定され、吸収コア(213)、透液性トップシート(211)及び不透過性バックシート(212)を有する吸収主体(210)と、を備えており、	争いなし
g	フィットギャザー(221-2)は、 ・前身頃においては、98.4%のフィットギャザー(221-2)が、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、 ・後身頃においては、100%のフィットギャザー(221-2)が、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、	甲8	フィットギャザー(221-2)は、 ・前身頃においては、少なくとも1本のフィットギャザー(221-2)について、その端部が前記吸収コア(213)の側縁部と重ならず腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され、 ・後身頃においては、概ね全てのフィットギャザー(221-2)について、その端部が前記吸収コア(213)の側縁部と重ならず前記腰下部(U)の中央部を除く左右脇部に配置され	乙5 乙34
h1	レッグ開口部を形成する長さ範囲である股部(L)のうち、 ・前身頃側のレッグ開口始端と股部の縦方向中心との間におけるレッグ開口始端から始まる該始端寄りの部分領域に複数のフィットギャザー(221)と同種の伸縮部材である股部伸縮部材(223)が、縦方向の間隔を平均すれば7.0mm以下とされた状態で外形シート(201)に配置され、 ・後身頃側のレッグ開口始端と股部の縦方向中心との間におけるレッグ開口始端から始まる該始端寄りの部分領域に複数のフィットギャザー(221)と同種の伸縮部材である股部伸縮部材(223)が外形シート(201)に配置され、		レッグ開口部を形成する長さ範囲である股部(L)のうち、 前身頃側のレッグ開口始端と股部の縦方向中心との間におけるレッグ開口始端から始まる該始端寄りの部分領域に複数のフィットギャザー(221)と同種の伸縮部材である股部伸縮部材(223)が、縦方向の間隔を平均すれば7.0mm以下とされた状態で外形シート(201)に配置され、	前身頃につき争いなし
h2	・前身頃側の股部伸縮部材(223)は、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって股部の中央部を除く左右脇部に周方向に配置され、 ・後身頃側の股部伸縮部材(223)は、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって股部の中央部を除く左右脇部に周方向に配置され、		前身頃側の股部伸縮部材(223)は、その端部が吸収コア(213)の側縁部と重なって股部の中央部を除く左右脇部に周方向に配置され、	前身頃につき争いなし
j	股部伸縮部材(223)の伸張応力及び断面外径は、ウエストギャザー(220)の伸張応力よりも小さく、かつ太さが620dtex以下であり、 ・股部伸縮部材(223)は、断面略楕円形の伸縮部材であって、その断面は、前身頃において、高さが約191μm、幅が約318μmであり、後身頃において、高さが約193μm、幅が約262μmであり、 ・ウエストギャザー(220)は断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、前身頃において、高さが約232μm、幅が約1564μm、後身頃において、高さが約233μm、幅が約1563μm、である	甲6 甲9 甲10	股部伸縮部材(223)の伸張応力及び断面外径は、周方向連続して配置された前記フィットギャザー(221-1)の伸張応力及び断面外径と実質的に同一であり、ウエストギャザー(220)の伸張応力よりも小さく、かつ太さが620dtex以下であり、 股部伸縮部材(223)は断面略楕円形の伸縮部材であって、その断面は、長径が約337.08μm、短径が約215.46μmであり、ウエストギャザー(220)は、断面略長方形の伸縮部材であって、その断面は、高さが約248μm、幅が約1825μm、である。	乙16 乙33